

【小学校 生活】

単元の指導計画における観点別評価(評定に用いる評価)の位置付け〈例〉

評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①〇〇に気付いている。 〇〇が分かっている。 など ※〇〇には、知識の具体を記述する。</p> <p>②△△において(の際)、 〇〇している。 ※△△には、学習活動を、 〇〇には、習慣や技能の具体を記述する。</p>	<p>①～⑤ 〇〇して(～しながら)、 △△している。 ※〇〇には、具体的な学習活動において期待する思考を、 △△には、具体的な児童の姿を記述する。 ＜期待する思考＞例 ・見付けて、比べて、 たとえて、試して、 見通して、工夫して ＜児童の姿＞例 ・観察している、表している、遊んでいる</p> <p>【思判表①～⑤】 具体的な学習活動において期待する思考</p>	<p>【主体態①②】 粘り強さ…思いや願いの実現に向かおうとしていること</p> <p>【主体態③】 学習の調整…状況に応じて、自ら働きかけようとしていること</p> <p>【主体態④】 実感や手応え…意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとするを繰り返す、安定的に行おうとしていること</p>

はばたく群馬の指導プランⅡ 単元のつくり方

過程と基本的な学習活動

1 学習対象に対して思いや願いをもつ。
◇学習対象と出会う。
◇学習対象について気付いたことや思ったことを伝えたり、話し合ったりする。
◇単元の課題をつかむ。
【単元の課題】
(単元を通して実現したい思いや願い)
◇単元の課題の実現に向けての学習対象との関わり方を考える。

2 具体的な活動や体験をする。

単位時間
【めあて】
◇学習対象と関わる。
◇自分で気付いたことや考えたことを表現する。
◇グループやクラス全体で気付いたことや考えたことを伝え合う。
【振り返り】

単位時間
【めあて】
◇新たな気づきを基に、再び学習対象と関わる。
◇自分で気付いたことや考えたことを表現する。
◇グループやクラス全体で気付いたことや考えたことを伝え合う。
【振り返り】

単位時間

単位時間

3 活動や気づき、考えについて振り返る。
◇単元を通して、気付いたことや考えたことをまとめたり、友達に伝えたりする。
◇思いや願いの実現に向けての活動を通して、自分の成長やよさを振り返る。
◇単元全体の振り返り (個人)

〈例〉 評価の位置付け

知識・技能	思考・判断・表現	主体的…態度
【知技①】 気付きの質の高まり		【主体態①】 粘り強さ
【知技①】 気付きの質の高まり 記		【主体態①】 粘り強さ 記
単位時間		
各単位時間で重点を置く評価の観点とは、指導者の授業の「ねらい」によって、変わります。		
【知技②】 気付きの質の高まり	【思判表①～④】 期待する思考	【主体態②】 粘り強さ
【知技③】 習慣や技能		【主体態③】 学習の調整
【知技②】 気付きの質の高まり 記		【主体態②】 粘り強さ 記
【知技③】 習慣や技能 記	【思判表①～④】 期待する思考 記	【主体態③】 学習の調整 記
	【思判表⑤】 期待する思考	【主体態④】 実感や手応え
	【思判表⑤】 期待する思考 記	【主体態④】 実感や手応え 記

はばプランⅡに示される「問題解決的な学習」の単元構想でない限り、評価規準に示される学習状況の評価をすることはできません。

**「指導に生かす評価」
(学習状況を見取る)**

全ての単位時間において、「ねらい」に即し、児童の学習状況をみとり、必要があれば、教師が指導、支援するなどして、その改善を図ります。

「指導と評価の一体化」の充実

**「評定に用いる評価」
(評価したことを記録に残す)
= 記**

- 目標の実現状況が児童の反応から顕著に見られる場面を精選します。
- 生活科は、継続的に指導(形成的評価)を積み重ねた結果としての学習状況と捉え、学習過程での、記録が多くなるのが考えられます。